

ボツワナ共和国月報(2024年1月)

主な出来事

【内政】

- 選挙人登録の開始
- バサルワ族、政府とデブスワナに請願を提出

【外政】

- マシシ大統領のウガンダ訪問

【経済】

- 2024年の経済成長率-世銀は4.1%を見込む-
- 最低賃金改定-2024年2月1日施行-
- カズングラ橋公社設立-ボツワナ・ザンビア両国間で合意-
- ノルウェー企業による太陽光発電事業
- 違法オンライン・ギャンブル-51万件の関与を確認-
- 12月インフレ率は3.5パーセント-前月比で0.4ポイント下落-
- 11月国際商品貿易統計-ダイヤモンド輸出額は、コロナ過以来、3か月連続の低水準-

【日本関連報道】

- 日本のNPO団体がシャカウエの小学校に楽器を寄贈

【内政】

- 選挙人登録の開始

昨年11月から開始の目処が立たなくなっていた、2024年10月の総選挙の選挙人登録が、IECの事前の公表通り、1月3日から開始され、選挙区毎に投票所にて選挙人登録が実施されている。1月19日時点の登録者数は約32万人で、IECの目標値150万人には全く及ばないため、早くも二回目の選挙人登録期間の実施が予想されている。

- バサルワ族、政府とデブスワナ社に請願を提出

ボテティ地区に在住するバサルワ族(サン族)は、生活環境及び行政サービスの利用について、ボツワナ政府及びデブスワナ社に請願を行った。バサルワ族は民族的背景から行政サービスの受益において差別されていること、彼らの居住地についてデブスワナ社のオラパ鉱山拡大等により伝統的暮らしが妨げられていると不服を申し立てている。

【外政】

- マシシ大統領のウガンダ訪問

マシシ大統領は19日～20日、第19回非同盟運動(NAM)サミットへ参加するためウガンダを訪問した。このサミットは、高まる地政学的緊張や武力闘争といった新しい地球規模課題を議論することを目的としている。続く21日～22日、同国で開催された南サミット

(G77+中国)へも出席し、開会式で演説を行った。同サミットにはクワペ外相も出席した。

【経済】

○2024年の経済成長率-世銀は4.1%を見込む-

世銀は、2024年のボツワナの経済成長率を、ボツワナ政府が予測する4.4%を下回る4.1%と予測。

○最低賃金改定-2024年2月1日施行-

12月23日、労働内務省は、特定業種(図)の最低賃金額引上げを承認した。新たな最低賃金は、2月1日より施行。

図:特定業種の最低賃金一覧(括弧内は改定前の賃金)

職種	最低賃金(前回改定:2021年12月)
建築・建設・探鉱・採石	9.06(7.34)プラ/時間
卸売・配送	9.06(7.34)プラ/時間
製造・修理	9.06(7.34)プラ/時間
宿泊・仕出し・娯楽	9.06(7.34)プラ/時間
自動車修理・道路運送	9.06(7.34)プラ/時間
監視員	9.06(7.34)プラ/時間
警備(警備会社雇用)	9.06(7.34)プラ/時間
小売	9.06(6.51)プラ/時間
家政業	1,500(1,084)プラ/月
農業	1,500(1,084)プラ/月

○カズングラ橋公社設立-ボツワナ・ザンビア両国間で合意-

24日~25日ザンビアのヒチレマ大統領はカサネを訪問し、カズングラ橋においてマシシ大統領とボツワナ・ザンビア首脳会談を行った。両国間によるカズングラ橋公社(KBA)の設立合意が発表され、本部はボツワナに設置、CEOはザンビア人が就任し、今後2か月以内に運営等に必要な文書に署名を行うこととなった。

○ノルウェー企業による太陽光発電事業

ノルウェーに拠点を置くスカテックASA社は、セレビ・ピクエ及びママディラネの両区において、太陽光発電事業開始を公表した。総発電規模は最大120メガワットを見込む。

○違法オンライン・ギャンブル-51万件の関与を確認-

ボツワナ・ギャンブル規制庁(GA)は、カジノを中心とする、国民の非合法オンライン・

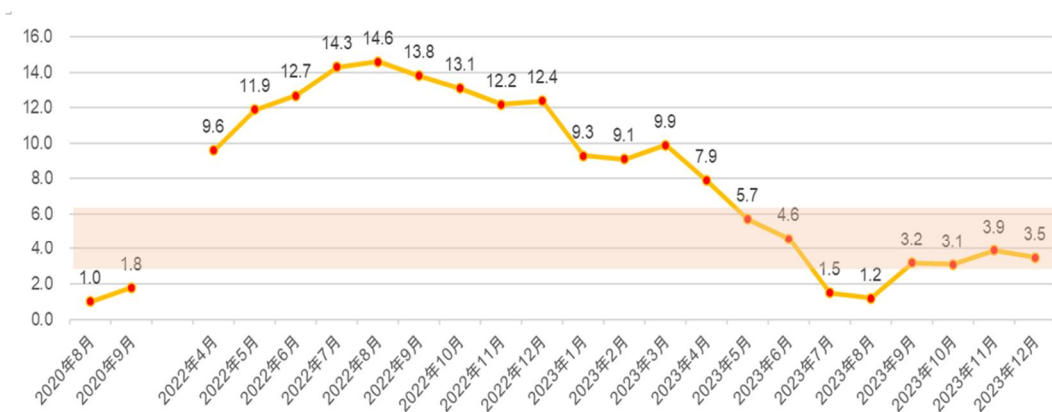
カジノ(運営ライセンス未取得)への関与が、ひと月あたり51万件に達していることを公表した。ケシチルウェ同庁CEOは、国民への教育、マネーロンダリング対策やギャンブル依存症対策を含めた安全なギャンブル環境の構築が課題であると訴えた。

○12月インフレ率は3.5パーセント-前月比で0.4ポイント下落-

12月の年間インフレ率(前年同月比)は3.5%となり、前月の3.9%から0.4ポイント下落した。分野別寄与度は、食品・非アルコール飲料(0.9%)、雑貨・サービス(0.8%)、運輸(0.4%)であった。

結果として、インフレ率は、ボツワナ銀行インフレ目標(3%から6%)の範囲内に落ち着き、2023年を終えた。

(図:近年のインフレ率の推移)



注: ボツワナ銀行中長期インフレ目標 (3%から6%) ←

○11月国際商品貿易統計-ダイヤモンド輸出額は、コロナ過以来、3か月連続の低水準

11月、輸入総額は95.143億プラとなり、前月の85.571億プラ(改定値)から11.2%増加した。他方、輸出総額は、前月に続くダイヤモンド輸出額の低迷により、前月の38.717億プラ(改定値)(注)から24.3%と大幅に減少し29.298億プラとなった。輸出額の減少は、ダイヤモンド輸出額が、9月、10月と連続してコロナ禍(特に輸出の低迷した2020年2月から8月)に匹敵する低水準となっていたが、11月に入ると12,963億プラと更に落ち込んだことによる(図)。また、前月に引き続き、輸出額に占めるダイヤモンドの割合は50%を下回った。

結果として、11月の貿易収支は65.8450億プラ(速報値)の赤字となり、貿易赤字も3か月連続となった。

注)先月公表の数値は27億0,990プラ(速報値)のため、大幅に上振れしている。

図：月別ダイヤモンド輸出額（2020年及び2023年比較）



*2023年11月は速報値←

(分野別内訳：上位5分野(％))

	1位	2位	3位	4位	5位
輸入	ダイヤモンド 23.3	燃料 19.4	食料品等 15.0	化学・皮革 11.8	機械・電機 11.2
輸出	ダイヤモンド 44.2	銅 25.8	機械・電機 10.1	プラスチック (製品) 3.8	塩・ソーダ灰 3.2

(国別内訳：上位5か国(％))

	1位	2位	3位	4位	5位
輸入	南ア 57.2	ナミビア 20.0	ザンビア 3.6	インド 3.6	中国 2.8
輸出	南ア 21.8	UAE 18.6	ベルギー 15.7	中国 14.2	豪州 9.9

【日本関連報道】

○日本のNPO団体がシャカウエの小学校に楽器を寄贈

29日、日本で活動するNPO団体「子どものための国際音楽交流協会(AIMEC)」の岩井理事長が、シャカウエ(ボツワナ北部)にあるKathiana小学校を訪問し、同団体が寄贈した楽器の引渡式に、現地関係者らと出席した。ンコロイ前駐日ボツワナ大使、ボツワナ外務省及びNPO団体との協力により、本寄贈が実現したもの。鍵盤ハーモニカ、ギター、フルートが寄贈され、学校長によると、児童は演奏の仕方を学び、学校やコミュニティにも良い影響がある。

(了)